



Fresh Smile フレッシュ・スマイル

期待の新星！徳中で働くフレッシュなルーキーが、未来のビジョンについて語る！

医事課(入職1年目)

たにざき あいみ
谷崎 愛美



公共性の高い仕事をしたい。中でも、人々の安心に関わる医療に携わりたいと考え、この道を選びました。入ったばかりでまだわからないことだらけですが、先輩方を見習って、精一杯頑張りたいと思っています。

趣味は、国内外問わず旅行を楽しむことです。知らない土地の景色や文化、ご当地料理など、さまざまな体験するのが好きです。そうした非日常を味わうことが、良い気分転換になっています。

経理課(入職1年目)

はやし こうすけ
林 滉介



身近に医療従事者がいたこともあり、彼らの負担を少しでも減らし、事務面から支えるお手伝いができればと思い、この仕事を目指しました。経験を重ね、周りから確実に必要とされる存在になりたいと思っています。

趣味は、おいしいものを食べること。中でもラーメンが大好きです。知らないラーメン屋さんを見つけるとチェックして、後日、近くを通ったときに寄ることにしています。

栄養管理室が発信！ 健康レシピ

旬食材で

管理栄養士
ごんたい めぐみ
権代 愛実



タンパク質、ビタミン、ミネラルをバランス良く摂取できる一皿です。酸味や薬味が効いたタレをかければ、食欲がないときもさっぱりと食べられるだけでなく、酢に含まれるクエン酸による疲労回復効果も期待できます。



たっぷり野菜の棒棒鶏

バンバンジー



《材料(4人分)》鶏モモ肉…1枚、塩…少々、酒…大さじ2、トマト…1個、キュウリ…1本、モヤシ…1/2袋、ナス…1本、かいわれ大根…1/2パック、ミョウガ…2個、A[ねりごま…大さじ2、砂糖…大さじ1、しょうゆ…大さじ3、酢…大さじ1、ごま油…小さじ2、ネギのみじん切り・おろしショウガ・おろしニンニク…適量]

《作り方》①鶏肉の皮や余分な脂を取り除き、火が通りやすいように全体にフォークを刺してから塩をふる。②①を耐熱皿にのせて酒を振りかけ、ふんわりとラップをして600Wの電子レンジに8～10分かける。冷えたら薄くそぎ切りにする。③モヤシと細切りにしたナスをそれぞれゆでて、水気を軽くしぼっておく。④トマトはくし形、キュウリとミョウガは千切り、かいわれ大根は根元を落としておく。⑤Aを混ぜてタレをつくる。⑥野菜と鶏肉を皿に盛り付ける。⑦をかけた後完成。

ご意見・ご感想を募集しています

誌面に対するご意見やご感想、とりあげほしいテーマがありましたら、①氏名②住所③年齢④性別⑤ご意見などをご記入のうえ、下記宛先までお便りかメールでお送りください。

○個人情報の取り扱いについて
個人情報は、今後の誌面づくりの参考のために使用し、使用後は編集部が責任をもって破棄いたします。

編集後記

みなさんはじめまして。今号からスマイルを担当させていただきます山下と申します。山口県に住むのは初めて。右も左もわからない状況ですが、早く慣れるように頑張りますので、温かい目で見守っていただければ幸いです。いよいよ夏本番です。体調にはくれぐれもお気をつけください！
(編集担当 山下)



JCHO徳山中央病院広報誌「Smile」 夏号vol.009 2019年7月31日発行
発行/JCHO徳山中央病院 direction&design/しろくまグラフィックス writing/小野理枝
お問い合わせは…JCHO徳山中央病院 総務企画課 TEL:0834-28-4411 E-mail:main@tokuyama.jcho.go.jp
photo/Photo Office MOTHER LEAF

Tokuyama Central Hospital

Smile

【スマイル】

夏号

vol.009

Summer.2019

地域のみなさまと『JCHO徳山中央病院』をつなぐ
コミュニケーションマガジン



<診療科情報>

「脳神経内科」「脳神経外科」「脳卒中内科」が連携！

JCHO徳山中央病院

“脳神経センター”

脳神経外科 主任部長 原田 有彦

<Hello! 部署訪問>

南館5階病棟

<認定看護師>

認知症看護認定看護師 重岡 和江

<地域連携クリニックのご紹介>

ふるたに消化器内科 古谷 晴茂 院長

〒745-8522 周南市孝田町1-1 JCHO徳山中央病院 総務企画課 宛

QRコード



メールご利用の方は、こちらから→

当院の「脳神経センター」最大の特徴は、山口県で唯一、脳神経外科と脳神経内科、脳卒中内科の3科が連携を密にして、多種多様な脳神経疾患に立ち向かっていることです。現在、当センターには、脳神経外科医4名と神経内科医3名(うち1名は脳卒中内科医)が在籍しており、くも膜下出血や脳出血、脳梗塞等の脳卒中をはじめ、脳腫瘍、てんかん、脳炎や髄膜炎などの感染疾患、頭部外傷、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの神経変性疾患、多発性硬化症などの脱髄疾患の診療に取り組んでいます。これに加えて、救急科や麻酔科をはじめ、多くの他科医師と、看護部・放射線部・検査部・リハビリテーション部スタッフの協力に支えられ、山口県で最多となる急性期脳梗塞患者の受け入れ数を実現しています。

24時間体制で速やかに対応!

脳卒中や重症頭部外傷、神経変性疾患の治療においては、速やかに専門医につなげることが最も大切です。そのため、当センターでは頭部MRI検査をはじめとする神経画像診断を24時間体制で行い、脳神経外科専門医あるいは脳神経内科専門医が常に対応できる体制を整えています。先進的な治療に積極的に取り組み、脳梗塞に対してはrt-PA(遺伝子組み換え組織プラスミノゲン・アクチベータ)を用いた超急性期血栓溶解療法、カテーテル治療による血栓回収術などを導入しています。脳外科手術に関しては、各種神経モニタリングやナビゲーションシステムといった標準的な手術支援設備に加え、必要があれば最新鋭のハイブリッド手術室を積極的に利用し、安全で確実な手術を行っています。

県内唯一!

JCHO 徳山 中央病院 “脳神経センター”



協力して 頑張っています!

- 脳神経内科 部長 安部 真彰
- 脳神経外科 部長 原田 克己
- 脳神経外科 部長 原田 有彦
- 脳神経外科 医長 藤山 雄一
- 脳神経内科 副主任部長 小笠原 淳一
- 脳神経外科 副主任部長 上田 祐司
- 脳卒中内科 副主任部長 市川 靖充

○さらに詳しい情報は… 徳山中央病院 脳神経センター診療科一覧 検索

脳や神経の病気は時に診断をつけるのが極めて難しい例があるため、多数の専門医による話し合いが重要と考えています。そこで、当センターでは平日の朝、脳神経外科および脳神経内科の医師全員が参加するカンファレンスを行い、入院患者さんに限らず、気になる症状の患者さんの診断や治療方針に関して検討を行っています。重症患者さんの治療が安全に行えることを第一に考え、ローテート中の研修医や救命センターの看護師も参加し、情報を共有しています。毎週水曜日の午後には、病棟看護師、理学療法部スタッフ、管理栄養士、社会福祉士を加えた合同カンファレンスも行い、患者さん一人ひとりの病状の確認やリハビリの進行状況、今後の治療方針、退院にむけての綿密な話し合いなどを行っています。

充実した施設と診療実績

施設面においては、頭部MRI装置の3.0テスラが2台、1.5テスラが1台の計3台が稼働しています。頭部CT装置は320列マルチスライスCTを導入し、診療にあっています。また、2011年4月からは脳卒中急性期の診療を目的として、救命救急センター内に、脳卒中専門のSCU病床を開設し、現在11床で運営しています。このSCU病床では、脳卒中や頭部外傷、神経変性疾患をはじめとする重症脳神経疾患の患者さんを受け入れ、より高度な医療と手厚い看護を提供しています。

脳神経センターの診療実績

[平成30年1月~12月]	[平成30年度]
●新入院患者数 834名	●外来患者延数 18,652名
●1日平均入院患者数 51名	●1日平均外来患者数 76名
	●脳神経外科の手術件数 273件

時間が命。脳卒中は治す時代へ “脳卒中”

かつて脳卒中は積極的な治療法がありませんでした。しかし、近年の医療技術の発展により、その治療は大きく変貌しています。わが国では、脳梗塞の治療に関して、2005年にrt-PA(遺伝子組み換え組織プラスミノゲン・アクチベータ)を静脈に点滴投与して血栓を溶かす治療法が保険適応になりました。さらに、2010年10月からは、カテーテルを脳動脈内に挿入し、血管に詰まった血栓を直接取り除く血栓回収療法が始まりました。ただし、どの治療法も時間が経てしまえば効果がありません。rt-PAによる血栓溶解療法は発症から4.5時間以内、カテーテルによる血栓回収療法は発症後6時間以内に治療を開始するように定められています。従って、脳卒中は発症後いかに早く診断し治療を開始できるかという時間との戦いがポイントです。

“脳卒中”予防10か条

1. 手始めに 高血圧から 治しましょう
 2. 糖尿病 放っておいたら 悔い残る
 3. 不整脈 見つけ次第 すぐ受診
 4. 予防には たばこを止める 意志を持って
 5. アルコール 控えめは薬 過ぎれば毒
 6. 高すぎる コレステロールも 見逃すな
 7. お食事の 塩分・脂肪 控えめに
 8. 体力に 合った運動 続けよう
 9. 万病の 引き金になる 太りすぎ
 10. 脳卒中 起きたらすぐに 病院へ
- (日本脳卒中協会 ホームページより)

意外と知られていない!? “高齢発症てんかん”

てんかんは子どもの病気と思われがちですが、最近の研究で高齢者にも多い病気であることが明らかになってきました。現在、日本における高齢発症てんかんの有病者数は、30~40万人にのぼるといわれており、その数は全てのてんかん患者のおよそ1/3にあたります。高齢発症てんかんは、脳卒中やアルツハイマー病などの認知症性疾患、頭部外傷、脳腫瘍などにより脳に何らかの障害が起きることや、脳の一部が傷つくことで発症する場合があります。しかし、原因が明らかでないものも多く見られます。

○症状 高齢発症てんかんの多くはけいれんを伴わない複雑部分発作です。本人は発作の最中のことを覚えていないことが多く、一時的に記憶が途切れています。

○診断と治療方法 まず、ご本人をはじめご家族や入所先のスタッフなどへの聞き取りを含めた詳細な問診を行います。次に、脳波検査や睡眠脳波の測定を行います。場合によっては、画像検査(MRI)や脳の血流を測定する検査を行うこともあります。治療は、てんかん薬による薬物療法が中心となります。ただし、他疾患の治療に使用されている薬剤との相互作用を考慮することが重要です。

口や手をモゾモゾさせる。意識がはっきりしない

病棟スタッフ
です!



外来スタッフ
です!

“どんなお仕事をしていますか?”

Hallow! 部署訪問!

南館5階病棟

部署	泌尿器科医	7名
データ	看護師	病棟30名、外来8名
	看護補助者	病棟4名、外来1名
	専従理学療法士	1名

チーム力で最善の治療・看護を提供

当病棟の特徴として、専従理学療法士がおり、急性期におけるベッドサイドでのリハビリの開始、褥瘡(じょくそう)の予防や安楽な体位の工夫、退院に向けたリハビリやアドバイスなどに力を発揮しています。また、食欲不振時の援助、薬剤師による内服薬や化学療法時の説明のほか、ソーシャルワーカーによる退院調整など、多職種連携によりチーム一丸となって患者さんをサポートしています。

患者さんが笑顔になることは、私たちスタッフの大きな喜びです。そのため、いつも笑顔で対応し、心身ともに安全で安心した環境を提供できるように心掛けています。



多職種と協力して患者さんの気持ちに寄り添ったリハビリを行っています。

リハビリテーション部

理学療法士
ふくなが なおまさ
福長 直尚

理学療法士
つるもと あいこ
鶴本 愛子

理学療法士
なかむら ゆきえ
中村 幸枝

急性期から慢性期まで幅広く対応

南館5階の泌尿器科は、腎総合医療センターとして、腎不全に対する血液透析や腹膜透析などの慢性疾患の患者さんだけでなく、膀胱腫瘍や腎腫瘍の内視鏡下手術、ロボット補助下前立腺切除術や腎移植といった手術を受けられる患者さんも多く入院されます。近年は、周南地域だけでなく県内各地から当院を希望される方、他院からの紹介入院の方も増えています。また、泌尿器科に限らず、救急科・消化器内科・総合内科など、さまざまな診療科の入院も休日・夜間を問わず受け入れており、患者さんに最善の治療・看護を提供できるように日々取り組んでいます。



腹膜透析練習用の
まめたくん



抗菌薬や抗がん剤を中心に、わかりやすく丁寧な説明を心掛けています。

薬剤部 薬剤師
せがみ なおき
瀬上 直輝



患者さんやご家族の気持ちに寄り添う

患者さんやご家族の不安、負担が少しでも軽減できるように、入院直後から退院後の生活を見据えたサポートを行っています。その際に、ご本人の思いはもちろん、ご家族の思いも大切にしたいと思っています。また、医療面での連携に加え、生活面でも継続して支援を行うために、地域内のネットワーク体制も確立しています。



Certified Nurse

認定看護師

にん だいでい かんご

徳山中央病院では、現在12名の認定看護師が活動しています。今回は、認知症のケアを専門とする認定看護師をご紹介します。



認知症看護認定看護師

しげ おか かず え
重岡 和江

患者さんの声にならない思いを受け止めたい。

今や認知症は他人事ではなく、誰もが関わる可能性のある身近な病気です。2025年には、国民の約700万人、65歳以上の高齢者のおよそ5人に1人が認知症を発症する可能性があるといわれています。こうした状況の中で重要になってくるのが、認知症という病気に対する正しい知識と理解です。

認知症の診断を受けた方が入院されることは、その方にとって大きなストレスになります。入院したことを何度説明されても、自分がどこにいるのか、何をされるのかわからない不安と恐怖を感じているかもしれません。疾患による苦痛を抱えながら、検査や治療の意味が理解できずに混乱されているかもしれません。

世間一般では、認知症を患うと、何もわからなくなると思われがちですが、それは

違います。記憶が失われても、心が失われるわけではありません。楽しいときには笑い、悲しいときには泣くといった感情に変わりはありません。そのため、認知症患者さんのさまざまな表情や仕草から、声にならない気持ちを読み取り、適切なケアや支援につなげていくことが、認知症看護認定看護師の重要な役割だと思っています。

「私は学校の先生をしていてね…」「頑張ってる息子を大学に入れたの」と、認知症の方が昔のことを話されるとき、私は患者さんの嬉しそうな表情を見るのが大好きです。療養生活の中で心地よい時間を共有することが、患者さんの不安やストレスを減らすこととなります。そのため、一緒に笑い合える時間を少しでも増やせるように取り組んでいます。

当院では、2年前の2018年に認知症ケアチームの活動がスタートしました。入院中の認知症患者さん、疾患や手術により混乱が生じた患者さんなどを対象に、病棟の見回りなどを行っています。チームメンバーは、私のほかに医師、社会福祉士、薬剤師、管理栄養士、心理療法士、理学療法士、歯科衛生士など。患者さんが安心して治療を受け、入院生活を送ることができるように、多職種が連携を取りながら活動しています。

また、ご家族からのご相談や今後の生活の場の選択などを、地域連携室のスタッフと一緒に考えています。病棟スタッフが対応に困った場合も、一緒に話し合い、統一したケアにつなげています。入院中のお困りやご相談がありましたら、いつでもお気軽にお声がけください。



(左・中)多職種で話し合い、常に最善のケアを考えています(右)患者さんに安心感を得られるよう笑顔で接することを心がけています

重岡看護師プロフィール

趣味は、SUPER GTをサーキットで観戦すること。迫力のあるエンジン音とスピードにワクワクが止まりません。今年こそシリーズチャンピオンを目指して、GO!GO!NISSAN!



地域連携
クリニックの
ご紹介

徳山中央病院と連携されている
地域の“かかりつけ医”をご紹介します！

REPORT



今回ご紹介するのは…

ふるたに消化器内科

ふるたに はるしげ
院長 古谷 晴茂 先生



何よりも患者さんやご家族の方との
コミュニケーションを大切にされて
いるスタッフのみなさん

自然光がたっぷり入る
待合室は、明るく安らぎに満ちた空間



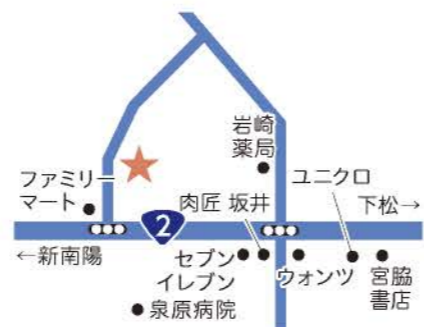
院内のあちこちに生けられた季節の
草花が心を和ませてくれます

ふるたに消化器内科

診療科目/内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科

周南市楠木1-9-5 tel.0834-39-2525
主な診療内容/内科一般、生活習慣病、胃・大腸内視鏡検査、胃透視、注腸透視、腹部超音波検査、甲状腺・頸動脈エコー検査、健康診断、予防接種、健康診断等

診療時間	月	火	水	木	金	土
8:30~12:30	○	○	○	○	○	○
15:00~18:00	○	○	○	—	○	○



また、オープンシステムの徳山医師会病院との連携により、古谷先生が主治医のまま入院も可能。重症となり緊急手術や高度な治療が必要な場合は、徳山中央病院と連携を取り、対応してもらえます。「おもてなしは英語で“Hospitality”といわれます。この言葉の中には“Hospital(病院)”という言葉が含まれています。私たち医療に従事する者の原点は、このおもてなしの精神だと考えています。これからも、相手を思いやる気持ちを大切にしながら、地域医療に貢献していきたいと思っています。胃や腸といった消化器に限らず、健康上の不安がありましたら、どんな些細なことでもご相談ください」

院長 PROFILE

山口大学医学部卒業。同大学医学部大学院博士課程(病理学)修了。徳山中央病院消化器内科部長を経て、平成11年7月、ふるたに消化器内科を開院。趣味は、学生時代から続けているテニス。週に2回、仲間と一緒にテニスでリフレッシュするのが元気のもと。

周南市の閑静な住宅街にある「ふるたに消化器内科」にお邪魔しました。院内に入ると、大きくとられた窓から明るい日差しが入り、ここが病院であることを忘れてしまうような開放感に満ちています。院長の古谷晴茂先生が診療にあたって大切にされているのは、患者さんの訴えにしっかりと耳を傾けること。人によって異なる自覚症状から、さまざまな病気の可能性を探り、その原因を突き止めることが治療の第一となります。「胃や腸といった腹部の病気は、患者さんご自身では見えないため、多くの方が不安を抱えていらっしゃる。そこで、超音波や内視鏡、透視を使った検査を行い、実際に画像を見ていただきながら、現状をわかりやすく丁寧にお伝えするように心掛けています」

患者さんに直接薬を渡したいの思いから、院内処方を行っているのも大きな特徴です。体調がすぐれない患者さんが院外にある調剤薬局まで移動するのは大変、患者さんの費用の負担を抑えたい…患者さんのことを第一に考える優しい気持ちが伝わってきます。

ギモンにお答え！ よろず相談室

問.「訪問看護」ってどういうもののなの？

答. 病気や障害があっても住み慣れた家で暮らし続けたい。人生の最期を自宅で迎えたい。そんなときに頼りになるのが訪問看護です。医療保険または介護保険を利用して、在宅に必要な看護ケアを受けることができます。看護師などの医療従事者が定期的にご自宅を訪問し、健康状態の観察、点滴・注射などの医療処置、療養上のお世話や相談に対応します。ご利用にあたっては、医師の訪問看護指示書が必要になります。

地域連携・相談室は、地域みなさまと当院をつなぐ地域医療の窓口です。

退院・転院支援や、活用できる社会制度の情報提供、患者さんやご家族のご心配事など、誰に相談していいかわからなくて困っていませんか？どんなことでもかまいません。まずはお気軽にご相談ください。



地域連携・相談室は、西館1階にあります。



休息をとみましょう



水分・塩分補給
しましょう

熱中症、ゼロへ！

熱中症を予防しましょう

熱中症について正しい知識を身につけ、体調の変化に気をつけるとともに、周囲にも気を配り、熱中症による健康被害を防ぎましょう。

予防のポイント1

暑さを避ける

室内では…

扇風機やエアコンで温度を調節
遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用
室温をこまめに確認

外出時には…

日傘や帽子の着用
日陰の利用、こまめな休憩
天気の良い日は、日中の外出をできるだけ控える

からだの蓄熱を避けるために

通気性のよい吸湿性・速乾性のある衣服を着用
保冷剤・氷・冷たいタオルでからだを冷やす

予防のポイント2

こまめな水分補給

室内でも、外出時でも、喉の渇きを感じなくても、こまめに水分・塩分・経口補水液[※]などを補給する。 [※]水に食塩とブドウ糖を溶かしたもの

熱中症の症状

〇めまい、たちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り、気分が悪い、頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、脱力感、いつもと様子が違う 〇重症になると、返事がおかしい、意識消失、けいれん、からだがかい

熱中症が疑われる人を見かけたら…

涼しい場所へ

エアコンが効いている室内や、風通しのよい日陰など涼しい場所へ避難させる

からだを冷やす

衣服をゆるめ、からだを冷やす(特に首のまわり、脇の下、足の付け根など)

水分補給

水分・塩分・経口補水液などを補給する

自力で水が飲めない、意識がない場合は、すぐに救急車を呼びましょう！

<ご注意>〇暑さの感じ方は、人によって異なります。〇高齢者や子ども、障害者・障害児は特に注意が必要です。〇節電を意識するあまり、熱中症予防を忘れないようにご注意ください。

厚生労働省

詳しくは、厚生労働省ホームページ「熱中症関連情報」をご覧ください。

厚生労働省 熱中症 検索